

■宮山公園鯉のぼり祭り

遊んで、作って、食べて、交流を深めよう。

筑西市宮山（旧明野町）にある宮山ふるさとふれあい公園で、4月29日から5月5日まで『宮山公園鯉のぼり祭り』が開催されました。会場には楽しいイベントが盛りだくさん。地域の子どもたちがたくさん集まり、にぎやかな休日となりました。鯉のぼり祭りと、あわせて行われた日韓両国の文化交流事業『日韓交流アーティストキャンプin筑西』を紹介します。



地域の人の手でまちを活性化

『宮山公園鯉のぼり祭り』は、明野商工会・鯉のぼり祭り実行委員会が中心になり、毎年ゴールデンウィーク期間中に開催しているものです。今年で9回になるこのイベントは、地域の人の交流の場としてまちを盛り上げようと、ほとんどボランティアで行われているそうです。

会場には、色とりどりの鯉のぼりが飾られ、風に吹かれて気持ちよさそうに泳いでいました。よく見ると、園児や小学生、高校生の手作りのミニ鯉のぼりもあり、みんなが参加してこのイベントを作っているという感じがしました。5月1日のメイン日には、遊鼓座による太鼓演奏や松原常磐連のひょっとこ踊り、親子餅つき大会、苺の創作デザートコンテストなどが行われ、子どもたちの楽しそうな顔があちこちで見られました。

公園内には、今年でオープン6年になる農産物直売所『あけのアグリショップ』があります。年中無休で、この日もたくさんのお客さんにぎわっていました。人気の秘密は、99%地元産の新鮮な野菜ばかりを扱っているから。そのため、飲食店の人も買いに来るそうです。販売している野菜の一つひとつに生産者の名前が表示しており、鮮度にこだわるため、売れ残ったものは生産者が持ち帰るといって徹底ぶりです。

その隣では、地元産のそば粉を使った、うち立てのそばが食べられます。ひきたてなのでとても香りが良く、東京や埼玉など県外からのお客さんもたくさん訪れるそうです。アグリショップ店長の成田貞雄さんは、「お客様に喜んでいただけるようなものを提供したいと、日々頑張っています。自然とお客様が集まるようなお店にしたいですね」と話してくれました。



■このコーナーを担当したのは

えだ あきえ
江田 亜希枝さん（上平塚）

日韓陶芸家と地元の子が交流

芝生広場へ行くと、子どもたちが集まって何か作業をしています。きれいな色のタイルがたくさんあり、それをコンクリートでできた椅子に貼っていました。みんなのタイルがだんだん鯉のウロコの模様になっていきます。真剣な顔をしてタイルを貼る保育園児。感想を聞くと「楽しい！」と即答で返ってきました。これは、作品づくりを通して日韓の交流を図ろうと、真壁町の陶芸家・出町光織さんが企画した『日韓交流アーティストキャンプin筑西』の活動の一つです。椅子にもなる鯉のモニュメント作りは出町さんのアイデアで、このことで人々をつないだり、陶芸の楽しさを知ってもらえたら、と考えたそうです。子どもたちが貼っていたタイルは、参加した陶芸家の作品を細かくしたもので、韓国から持ってきたものもありました。「この椅子が完成するとともに、みんなの気持ちの一つになっただけで嬉しかったです」と、出町さんはおっしゃっていました。

このキャンプには、韓国から5人、日本から7人の陶芸家が参加し、ワークショップなどを行い、交流を深めていました。時には考え方の違いから、意見が食い違うこともあるそうですが、韓国の方はあいまいな言い方をしないので、問題は早く解決するそうです。韓国の方と話してみると、とても日本語が上手で、この企画のために韓国から筑西市に来てくださったということでした。公園内にある陶芸工房をのぞいてみると、韓国の陶芸家の方がろくろを使い、とても慣れた手つきで作品作りをしていました。コップのようなものがいくつも仕上がっていて、どれも同じ大きさだったので驚きました。出来上がった作品は工房の外で販売されています。明るい色のお皿もあれば、しぶい感じのものや形が素敵なものもあり、陶芸家の方によって個性がそれぞれ違うんだなあと思いました。見ているだけで、楽しい気分になり、作られた方の気持ち伝わってくる感じがしました。陶芸を通じた交流は、とても素敵なことだと思えます。このような貴重な交流に地元の子どもたちが参加することによって日本と韓国がますます近い国になるといいなと思います。



◀日韓の陶芸家の方に教わり、鯉のモニュメント作りに参加。とても楽しかったです。この作品がずっとここに残るのがうれしいですね。